

2019年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2020/9/30

団体名	NPO法人キドックス	活動タイトル	ドッグプログラムを広く地域に提供しアウトリーチを広げる事業					
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景					
● 地域の望ましい社会状況(ビジョン)	例え引きこもり状態になって身近に居場所や支えてもらえる安心感のある支援場所があり、生きづらさを抱える若者を長く支える環境と地域がある社会を旨とす。不登校や引きこもりの子ども・若者たちにとって、学び成長しその子らしさを伸ばせる環境はそれぞれ異なり、生き方の多様性が必要である。地域には多様な居場所があり、その子の好きなものや得意なものや興味があるものを中心に居場所を選べる環境がある。		小学校での命の授業					
● 団体の社会的役割(ミッション)	上記の居場所のひとつとして、「動物」が大きな切り口や行動する動機となると考える。当会ではそれを「地域のドッグシェルター」という場所を通じて、彼らが社会貢献活動に気軽に参加しながらステップを踏める居場所を作る。動物に会いに来て、犬に癒され、外に出る安心感と動機を作り、犬のトレーニングを通じてコミュニケーション力や協調性・責任感や忍耐力を高め、犬と向き合う中で自分の課題を認識し、犬のために乗り越え、犬の譲渡と共に自分の意思や長所や将来の希望を見つけ、それぞれの道を見つけていく。そして自立した後も、一般ボランティアとしてドッグシェルターに犬の世話で訪れ、仲間やスタッフ、後輩たちと出会い、長く支え合えるコミュニティを作る。		小学校で行った命の授業で、実際に犬とふれあい、散歩体験を行った					
● 団体の活動基盤	「地域のドッグシェルター」として様々な地域の人の第三の居場所として運営し、保護動物にとっては保護・管理・譲渡までの機能と動物愛護の教育・啓発活動を充実させていく。 また、ドッグプログラムを提供できる人材の育成（本助成事業にて研修プログラムを策定）、海外や国内の各専門家の方（対人支援、動物支援）のアドバイザーボードミーティングの実施、動物介在教育プログラムのコンテンツの整備と地域で多く実施できる体制とネットワークの強化をめざす。							
■ 活動報告			■ 1年間の目標に対する達成状況					
<p>「動物介在教育プログラムのコンテンツの整備と地域で多く実施できる体制とネットワークの強化」をめざして活動を実施。前半では、様々な繋がりから授業のお声掛けをいただき、出張型授業を2回行い、アンケート調査と施設プログラムの広報を行うことができた。うち1回目は、不登校生徒のご家族が2組参加しており（ただし本人は来たくても結局来れず）施設プログラムの案内を丁寧にすることができたものの、当日は参加することができなかった（ご本人曰く、プライドがあり自分が支援されるような活動は嫌だとのこと）。</p> <p>2回目は、不登校生徒について、学校側にアンケートでは回答してもらえず、当団体の支援についても話すことができなかったが、施設プログラムのチラシは全体に配ることができ、参加希望の生徒1名が来所することができた。ただ、元々学校側とのやりとりの中で状況を把握できていなかったため、その生徒の現状については共有できておらず、当日はシェルターワークのプログラムに参加したのみで終了した。その他、学校3校とプログラムのお話があがったものの授業日程の調整があり秋ごろ開催となった。また、茨城県内の中学校の不登校支援担当の先生方の会合に参加し、パンフレット200部配布し、さらに意見交換を行うことができ、各学校の抱える課題について具体的に何うことができた。</p>			<p>助成3年目は、地域の子ども・若者たちにドッグ・プログラムを広くサービス提供していく体制を作り、その中で当会の支援対象となる子ども・若者にアウトリーチ繋がっていくという流れを作ることを目的に活動を実施した。活動自体は、前半については当初の目標通り実施することができ、アンケート調査も行うことができた。また、実施の依頼数も全体としてみると年間3回予定のところ5件の依頼が入っていたので予定数を超えるはずだったが、日程調整が上手くいかず助成期間終了後の実施予定となってしまった。</p> <p>その他、プログラムの広報面では県内の不登校支援に関する会合で学校の先生方が一堂に集う会にて広報や意見交換ができたことで今後のサービスの見直しに活かすことができた。</p>			中学校での命の授業		
■ 事業を通じて得られたノウハウ			■ 望ましい社会状況を達成するための課題					
<p>●ドッグプログラムの運営コンテンツ（スケジュール、実施内容、留意点、プログラム資料、チラシなど）</p> <p>●ドッグプログラム提供者の人材研修マニュアル</p> <p>上記2点を作成できたことで、今後様々な教育機関などからの依頼に対応することができ、さらにプログラムを実施できる職員も育成も可能となった。今後も人材を育成してより多くの機関に良質なプログラムを提供できる体制を維持していきたい。</p>			<p>サービスのコンテンツを纏めて広報活動を実施する過程で、どの学校も不登校生徒の対応に悩んでおり、なかなか支援が学校内だけでは難しいと感じている。具体的には、地域のリソースを活用したいが、そもそも地域資源が少なくネットワークが不足しているため、個別対応ケースが多いことなどを課題としてあげていることがわかった。また、学校側も情報提供は欲しいが、子どもの情報の開示については保護者が積極的でない限りは慎重であることもわかった。</p> <p>このような状況を踏まえ、今後は、学校に随時情報提供を行い続け、こちらから働きかける姿勢を常に維持していく必要がある。保護者にまず働きかける仕組みが必要であり、ドッグプログラムの出張授業など直接お話をうかがえる際に、学校や保護者の考えや悩みなどを随時ヒアリングして状況把握に努める必要があるということを感じた。</p>			この1年間の活動を通じて	ドッグ・プログラムのサービス提供の基盤を整えること	を達成しました。
			<p>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p> <p>■ 受益者の具体的な変化（効果測定結果等）</p> <p>授業の参加者からは「自分のペットが何を考えているか家に帰ったら改めて考えてみよう」「将来ペットを飼うことがあれば最後まで大切にしたい」などの感想が寄せられた。</p>					